



東大和ニツ池だより

第4号
(2024年11月)

発行 東大和市
市民環境部環境対策課
編集 認定NPO法人 生態工房
●この印刷物には再生紙を使用しています



どうなった？

かいぼり後のニツ池

ニツ池では2023年11月から2024年2月にかいぼりを行い、池の干し上げ中にさまざまな自然再生作業を進めました。今回はかいぼり後の自然再生の状況と、最近の活動の様子を報告します。

湿生植物が生えてきました！



ミヅカクシ

池の護岸沿いに、水深の浅い段（浅場）を整備し、水中と陸地をなだらかにつなげました。池底や水路から採取した土を、浅場に撒き出したところ、絶滅危惧種のミズニラや、コウガイゼキショウのなかまを含むさまざまな湿生植物が生育する湿地になりました。



浅場の保全作業



コウガイゼキショウのなかま



ミズニラ

絶滅危惧IB類*

東京都レッドリストの 카테고리区分

絶滅	野生絶滅	絶滅危惧IA類	絶滅危惧IB類	絶滅危惧II類	準絶滅危惧	情報不足	留意種
----	------	---------	---------	---------	-------	------	-----

大 ← 絶滅のリスク

*東京都レッドリスト（北多摩）の 카테고리

水面が見えるようになりました



After



Before

かいぼり前の池は、外来種のスイレンに水面が覆われ、大量の枯死体が堆積して水質が悪化していました。池の干し上げ中にスイレンの根茎を掘り取るイベントを行い、かいぼり後も再生した茎葉の刈り取りを継続。水面の広がりが回復しました。

二つめの池が復活！



池が一つしかなかったニツ池公園に、二つめの池を整備しました。かつて、田んぼに水を引く「ため池」として使われていた時代には上下二つの池がありましたが、上の池が消失していました。かいぼり期間中に、作業イベントや専門業者によって上の池を復活させました。かつてのものよりも小さな池ですが、新たに水辺環境ができたことで、カルガモが飛来したり、クロスジギンヤンマやオオシオカラトンボが確認されています。埋もれていた種子からコウガイゼキショウのなかまなどの湿生植物が生えてきています。



カルガモ

! No! 生きもの放流

かいぼり後のニツ池で、観賞用の魚や水草などの投棄が見つかりました。こうした生物は発見次第、回収しています。狭山丘陵の水辺環境保全のため、生物の持ち込みはおやめください。



アマゾンチカガミ



改良メダカ



カワリヌマエビ属



魚のモニタリング状況

在来魚が繁殖

かいぼりでは、釣りや観賞の目的で持ち込まれたと考えられる外来魚を駆除しました。在来魚はいけすで保管し、かいぼりが終わった2024年2月に再放流しました。これらの在来魚が産卵し、4月以降には多数の稚魚が確認されました。



かいぼり後に生まれたギンブナの稚魚

水質改善

池底の干し上げによる酸化・脱窒作用や、園芸スライレンを除去したことにより、水質が改善されました。かいぼり前には黒っぽかった水は、色が薄らいで透視度がよくくなりました。溶存酸素(DO)も改善されています。

ちよこっと

T O P I C S

アメリカザリガニ防除を開始

かいぼりによって外来魚がいなくなったニツ池に、まだ残っている外来種：それはアメリカザリガニです。かいぼり中は泥の中に逃げ込んでいましたが、水を戻した池で再び活動を始めています。アメリカザリガニは水生昆虫や貝のよきな小動物のほか、沈水植物などの水草を好んで食べます。水草が消滅すると、池底の泥が巻き上げられて水が濁る、水草を生活の場としていた水生昆虫が減少するといった被害があることから、アメリカザリガニは2023年に条件付特定外来生物に指定され、野外への放流などが禁止されました。

東大和市はボランティア「東大和狭山丘陵保全班」との協働で2024年4月からアメリカザリガニの防除をスタートしました。15個のワナで捕獲を始め、7月以降はワナ数を倍以上にして捕獲圧を強化。これまでに6000匹以上を捕獲しました。ザリガニが減って水草が生えてくる状態を目指し、活動を続けていきます。

